

NPO法人「蜘蛛の糸」理事長の佐藤久雄氏は倒産を経験したことで鬱病を患うも、会社は道具であることに気が付くと共に、良寛の言葉「災難に逢う時節には災難に逢うがよく候、・」に救われたそうです。そして十の会得をされました。そのうちの少しを紹介します。*はじめて、人の情けが深くわかるようになりました*はじめて、人の悲しみが心に沁みるようになりました*はじめて、ありがとうございます*が素直に言えるようになりました*はじめて、百円のお金の大切さがわかりました*はじめて、家族のきずなの強さを実感しました*はじめて、一日過ごせるありがたさを知りました*はじめて、少しかだけ謙虚になりました。年間三万人弱の自殺者がみえますが、現在は自分の経験をいかして、そうした悩みを持つ多くの方々との相談にのってみえるそうです。知らず知らずの内に煩惱の火が大きくなりすぎ手の打ちようが無くなった時、燃え尽きた後に残るのは打ちのめされた己が姿です。野望は身を守りにくいものです。身の丈に合った望みを抱き、生活を考えるのが賢明です。大人だけで無く、子供の問題も深刻です。昨年の子童相談所に寄せられた児童虐待の件数は十万三千余件もありました。抱える問題が大きく成れば成る程、最終的には神経系の疾患に侵されてくると思います。最後に踏ん張るのは心、心の作用で身を決する事に成ると思います。落ち込みやすいタイプの人は特に要注意です。我々はストレスから多くの病を発症する事もあるようです。佐藤氏のように救いの手を差し伸べて下さる方が必要に成る訳です。

テレビの影響で真田家の話題がいっぱいです。上田城主、真田昌幸の子に、信之、その弟が幸村です。幸村と父、昌幸は関が原で豊臣方につき、破れて高野山の麓、女人高野で知られる慈尊院の近く九度山に蟄居、昌幸は病死。話したいのは信之が側室に産ませた子が無難禅師に得度して頂き出家して僧名、惠端を頂く。惠端は修行一筋、名聞利養を求めず。晩年には白隠禅師も惠端の門を叩き教えを請たのです。前号にも書きましたが我々は生きている限り、努力精進しなくてはいいかないと思います。ここで間違えてはいけません。決して自己中心主義を奨励するものではありません。共生の社会に於いて大切なのはギブ&テイクの精神です。テイク&ギブではないのです。震災に於けるボランティアの活躍を見れば素晴らしいものがあります。吾が身は何時お迎えが来るかわかりません。とかく人間は少しでも楽な方に転びやすいのです。よほど強固な意志を持たないと負けてしまいます。早ければ明日おもしろくない命です。百年の計画を立てても、一年一日の積み重ねに成ります。先が長く目に見えないものですから今日ぐらいいは休んでもと成ってしまいいやすいのです。人生は人と人の御縁です。大切な事の伝達は人格から人格に伝える様に心掛けるべきです。我々はシステム上の地位や肩書に惑わされやすいのです。惠端禅師に学ぶべき点は一人でも二人でもよいから本物を育てる。逆に言えば本物はそうそう育たないと言う事です。夏に水難事故で溺死された方も多々見えました。我々の愛情も溺愛は滅亡を招きやすいものです。愛を形にする時、思慮分別に時間を掛けましょう。